

## 令和4年度大阪府地域活動栄養士情報交換会

開催日：令和4年7月16日（土）

会場：大阪府社会福祉会館

地域活動部会の中軸を担う21の地域活動栄養士グループを中心に、グループに所属していない会員、他部会の会員あわせて計49名が参加し、情報交換会が対面にて開催された。

21グループには、事前に令和3年度の事業内容や実施方法についてのアンケートを行い、その結果をもとに意見・情報交換が行われた。

会の初めに日本栄養士会総会（6月26日開催）の報告、栄養ケア・ステーションの現状報告、子ども料理教室についての報告があった。

### アンケート結果

#### 1. 令和3年度の実施事業

会員対象の定例会はほとんどの会が対面で実施。勉強会は多くの会が実施なしの結果だった。会員外対象の料理教室、講演会・研修会講師などは半数以上が対面で実施。栄養指導や相談業務は対面では実施なしの回答が多く見られた。新たな取組みとしてWebを利用した講習会や栄養指導、感染防止対策を取りながら対面での相談業務を始めたグループもあった。

#### 2. 他のグループへの質問

- ・新規会員確保の方法
- ・コロナ禍における調理実習の方法と工夫
- ・Webを利用した活動
- ・今後の活動

### 情報・意見交換

#### 1. 新規会員の確保

会員数の減少という悩みは多くのグループが抱える問題であり、毎年話し合われる議題である。昨年度より会員数が増加したグループより①「活動の場が増えたことで市民に対してグループの存在を周知することが出来、その結果会員増につながった。」②「行政や社会福祉協議会が窓口となり紹介してもらった。」③「若い年齢層の獲得にはホームページでのアピールが有効である。」などの報告があり、理事からは大阪府栄養士会ホームページ④「仲間探し」コーナーも活用して欲しい。未掲載のグループについては協力するので相談して欲しいとのことだった。

#### 2. コロナ禍における調理実習の方法と工夫

大阪府栄養士会子ども料理教室を対面にて実施したグループから「市保健センターの協力もあり実施出来た。日頃から行政とは良好な関係作りが出来ている。活動する上で大きな助けとなっている。」と、行政との関わりについての報告があった。また、昨年コロナ感染対策マニュアルを作成し公民館事業として子ども料理教室を対面にて実施したグループから「小学校の調理実習実施の際のマニュアルや保健所の保健師の意見を参考にした。保護者へマニュアルを配布することで感染対策への取り組み方を理解してもらえたと思う。」とのことだった。

参加者からは「地域により行政との関係性に大きな差を感じる。」との意見が散見された。

#### 3. Webを利用した活動

大阪府栄養士会のZoomアカウントはグループの会議にはほとんど利用されていないと報告があった。

LINE公式アカウントやFacebook、Instagramを利用しているグループからは「コロナ禍の中で活動中止となり、離乳食など食育の情報発信ツールとして始めた。」「パソコンが得意な会員が中心となり会員募集のために始めた。」とのことだった。Webでの講演会や栄養指導を実施する場合は行政からの依頼が多く、操作は行政担当者が実施するとの報告もあった。ハイブリッド形式の研修会を助成金で実施したり、参加費有料の勉強会を実施することでWebの使用料を賄っているというグループもあった。

#### 4. 今後の活動

認定栄養ケア・ステーションと地域活動栄養士会を併設しているグループでは専門職管理栄養士としての活動を認定栄養ケア・ステーションが、食育活動を地域活動栄養士会が実施するというように活動内容を仕分けしているとのことだった。

「子ども食堂」のような取組みとして行政と連携し食材配布を行っているグループもあった。

コロナ禍の中での活動も3年目となる。会員数が減少する中で新たな活動方法を見出し柔軟に対応することが求められ多くのグループが苦慮している。しかしながら、昨年と比べWebの活用や感染対策を講じた活動も報告され、少しずつ前進していると感じられた。活発な意見交換ができ、大変有意義な情報交換会であった。

(文責 地活 西谷仁美)

